

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新ごみ処理施設整備・運営事業設計建設工事請負	階数	地上10F地下3F
建設地	海老名市本郷字新宿1番1 他7筆	構造	SRC造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	100 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,750 時間/年
建物用途	事務所,集会所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年3月 予定	評価の実施日	2016年1月22日
敷地面積	15,975 m ²	作成者	フジター級建築士事務所
建築面積	7,630 m ²	確認日	2016年1月22日
延床面積	18,898 m ²	確認者	フジター級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.6 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ BEE=1.0 C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(パーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 3.3

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

3 設計上の配慮事項

総合	その他
<ul style="list-style-type: none"> 最新の省エネ機器の採用や、省エネシミュレーションの実施 見学者が利用するプラザ棟の居室等には耐用寿命が長く、消費電力も少ない省エネ効果の高いLED照明を採用し、大空間かつ放熱量の高い炉室等は、温熱・換気シミュレーションによる換気・空調設備の最適化設計による消費電力の削減を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然エネルギーの積極的活用 トップライトによる自然採光、雨水の気化熱による屋上の放射熱抑制対策、太陽光・風力によるハイブリッド発電街路灯を部分的に活用している。
Q1 室内環境 <ul style="list-style-type: none"> F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、全館禁煙とするなど、空気質環境にも十分配慮している。 	Q2 サービス性能 <ul style="list-style-type: none"> 天井高を高くするなど心理性・快適性に配慮している。 階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより、空間にゆとりをもたせている。
LR1 エネルギー <ul style="list-style-type: none"> LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。 太陽光発電システムを採用するなど、エネルギー面にも配慮している。 	LR2 資源・マテリアル <ul style="list-style-type: none"> 自動水栓などに加えて、節水型便器などの省水型機器を用い、水資源を保護している。
	Q3 室外環境(敷地内) <ul style="list-style-type: none"> 敷地や建物の植栽条件に応じた適切な緑地づくりを行っている。
	LR3 敷地外環境 <ul style="list-style-type: none"> ライフサイクルCO₂排出率を86%とし、地球温暖化への配慮をしている。 広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される